

週刊住宅

2019年（令和元年）8月19日号

NO. 2873（毎週月曜日発行）

年ぎめ購読料 18,500円 本体・送料込み（税込み19,980円）

発行所 株式会社週刊住宅タイムズ

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-4 バビル

電話03-3234-2050 FAX03-3234-2070

問い合わせ:info@sjt.co.jp 情報提供:press@sjt.co.jp

シー・エフ・ネットグループ 倉橋隆行CEOに聞く

参加者は将来の下見

「三浦市トライアルステイ」二地域居住は一定層で増加

不動産コンサルティン グのシー・エフ・ネットグループ（神奈川県鎌倉市）は、神奈川県三浦市のお試し居住プログラム「トライアルステイ」に参画し、同市内への移住促進や空き家の有効活用につなげる二地域居住などに取り組んでいる。倉橋隆行CEOに同グループの取り組みを聞いた。

「三浦市のトライアルステイは今年で5期目を迎えています。当社では4期と5期に参画している。4期のときは6物件を提供し、60組・121人が応募し、29組・48人が参加した。その中で1組・2人が実際に東京・白金から三浦市の下町に移住してきた。今年は現状7物件を提供しており、34組・95人が応募している」

「参加者にはどのような提案をしていますか」

「田舎暮らしは多様化している。まずは入居者のイメージを作って、そこにあった建物改修をするなどで興味を示してくれている。築古の建物や古民家を汚れたままの状態で紹介するとうまくいかない。ただ実感としては、トライアルステイの段階で真剣に考えている人は少ない。理想の物件が少ないのもたしかで、（定年など）将来の下見としての参加者が多いのが特徴だ。」

三浦市下町城ヶ島活性化事業を市から受けているが、我われも独自に下町を案内しており、随時受け付け対応している」

「移住者の特徴について」

「移住者は自営業者の傾向が強い。引っ越ししても生活基盤となる収入源があるからだ。白金からの移住者は東京で寿司屋を営んでいた。渋谷で芸能人のヘアカットをしていた人は都会が嫌になって三浦市で美容院を開業したり、元リリーガーが接骨院を開業し、サッカー教室を定期的に開いたりしているケースもある。医師など所得の高いグループが会員制のシェアハウスにしている。移住には職が必要で、我われも店舗展開などで後押ししている。」

もしくは、二地域居住で週末だけ滞在するといった感じだろっ」

「二地域居住が空き家の有効活用で注目を集めています」



「金銭的に余裕のある人の特権的な部分は拭えない。都内に7000万円の住宅に住みローンをほぼ完済状態になっている人が伊豆で300万円の戸建住宅を購入した人もいる。これまでの日本の家賃制度に縛られない状況も強まっており、金銭的に余裕のある人の他地域居住が増えるのではないか」

（聞き手・中野淳）